

# 「こころが」 聞きたい

ユナイテッドリニューアブルエナジーの木質バイオマス発電所（秋田市向浜）が、今月から本格稼働を始めた。燃料の7割に県産の木質チップを使い、最大出力は東北最大規模の2万kwに達する。再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度を利用し東北電力と新電力事業者に売電している。平野久貴社長に木質バイオマス発電の可能性を聞いた。

## 木質バイオマス発電

—木質バイオマス発電の仕組みは。  
平野 木材を砕いたチップを燃やした熱で水蒸気を発生させ、タービンを回して発電する。

平野 久貴さん(49)

ユナイテッド  
リニューアブルエナジー社長



ひらの・ひさき 67年6月、潟上市生まれ。東北測量専門学校（現仙台工科専門学校）卒。99年から産業廃棄物処理などを手掛けるユナイテッド計画社長。14年にユナイテッドリニューアブルエナジー設立。秋田市泉住。

# 林業活性化にも貢献

燃料とするチップには、製材や合材に使えないような木材を使用する。風力や太陽光発電と異なり、電力を安定供給できる。  
—産業廃棄物処理業から木質

な市場が生まれるチャンスであり、自社消費用の火力発電のノウハウを生かせると考えた。日本一のスギ人工林面積を誇る秋田県の豊富な森林資源や、行政

バイオマス発電事業に参入したきっかけは。  
平野 東日本大震災と原発事故を契機に、国は電源構成比率の22〜24%を再生可能エネルギーで賄う方針を決め、法制度を整えた。中小企業にとって新たな

による林業人材育成の取り組みなども決め手となった。  
—発電計画は。

継続や県内林業の発展には、安定して出荷できるような樹種のベストミックスや、伐採と生育の効率的なシステムを行政と関係業者が一緒に考える必要がある。  
—林業への波及効果も期待できるか。  
平野 県内全域から未利用の木材を調達するため、林業の活

—今後の課題と展望は。  
平野 木質バイオマス発電は木材を燃やす性質上、環境問題と常に背中合わせだ。環境負荷が低く、持続可能性を担保する国際認証を取得したPKSを導入する。生産国のインドネシアには年2回、従業員を派遣し、違法伐採されていないかも調査している。環境に配慮し、持続可能な産業を目指したい。

（聞き手 伊藤康仁）